

LPAかながわ

シリーズ「くらしの見直し学習会」報告

「日常のお買い物感覚で金融商品を選ぼう」～必要なのは「投資理論」ではなく「くらしの智慧」～

内藤 真弓 氏 ファイナンシャルプランナー (CFP・1級技能士)

(株)生活設計塾クルー取締役

「運用の常識」これってどう？

(1) 長期投資でリスクが減る？

「長期投資」という気休めで思考停止は危険です。「長期間持っていれば大丈夫」ではありません。

収益が欲しいならじぶんで考えて判断すること。その判断の基準については自分なりの価値を持つこと。例えば、ブランドスーツを30%オフなら買うか、50%オフまで待つのか、といういつものお買い物と同じです。株価が上がり始めたら買うのか、見向きもされない低い水準のときに買うかの基準は自分で決めましょう。

(2) 分散投資は万能？

値動きの違う資産を組み合わせ、ブレを抑えるのが「分散投資」。かと言ってすべての資産を持たなくてはいけないわけではありません。また、株や債券の買い時は、それぞれ違うのにバランス型投信は同時に買わなければなりません。分散投資に振り回されないようにしましょう。

(3) 資産運用＝株式投資？

株式投資はやらなくてはいけないものではありません。

何のためにやるのか(例えば「確実性はないが目標達成が早まるかもしれないから」?「将来の余力を高めるため」?など)を見極めましょう。

(1)のように自分なりの基準をもっていますか？

(4) ドルコスト平均法は有効？

毎月一定額を積み立てると価格が高いときに少なく、安いときには多く買えるのがドルコスト平均法ですが、何に投資するのが重要で、上がらないと意味がありません。

現状を考えず(メンテナンスせず)買い続けるのは危険です。「積み立てを停止する」「いったん売る」という判断も必要かも...

集中投資になる危険もあるので、資産全体のバランスを意識しましょう。